

JAたじま10年ビジョン

中期3か年計画

Plan 2016

たじまに生きる たじまを活かす



JAたじま10年ビジョン及び 中期3か年計画“Plan 2016”の設定について

近年、私たちの暮らしを取り巻く環境は大きく変化しています。わが国農業に重大な影響が見込まれるTPP交渉の行方は依然として予断を許さない状況です。また、政府は日本農業の根幹である水田農業に対して、需給調整を生産者団体に委ねるとともに、米の直接支払交付金を減額するなど、大きな政策変更を進めようとしています。経済面においても、アベノミクスといわれる積極的な財政政策を打ち出し、日本経済に好転の兆しが見えてはいますが、地方においてはその恩恵は大きいとはいえず、都市部と地方との格差の広がりが懸念される状況です。

さらに、但馬地域においては、都市部と比べて顕著に高齢化や人口の減少が進み、農業の担い手不足や経済の縮小は深刻な問題になっています。

このような情勢であることから、JAたじまは、このたび、組合員や但馬地域を取り巻く環境変化と10年後の将来を見据え、JAたじまの果たすべき役割をまとめたJAたじま10年ビジョンを策定しました。さらに、組合員、地域とともに、スローガン「たじまに生きる たじまを活かす」のもと、10年ビジョンを実現するため、向こう3か年の具体的取り組みとして中期3か年計画Plan 2016を策定しました。

Plan 2016では、次の通りの取り組みを進めます。

但馬の農業の持続的発展のためには、但馬の特色ある農畜産物のファンづくりを強力に進め、他に負けない力をつけていくことが必要です。そのため、コウノトリ育むお米をはじめとした安全・安心でおいしい米づくりを主軸とした但馬農業のブランド化を進めます。また、高齢化しつつある担い手の支援と後継者育成に取り組みます。さらに、担い手・後継者による生産拡大や一般農家の営農継続をサポートするため、農業施設の整備・拡充に取り組みます。

くらしの面では、組合員みんなが暮らしやすい但馬を実現するため、JAを拠点とする「つながり」づくりを主とした活動に取り組みるとともに、増加する高齢者にとっても暮らしやすい但馬であるよう、福祉介護事業をはじめとした高齢者向け事業活動に積極的に取り組みます。

また、JAたじま自身が、組合員、地域住民から信頼され、「地域No.1の満足度」を提供するため、組織基盤の拡充と、コンプライアンス(法令遵守)を重視した堅実な経営につとめます。

平成26年6月

たじま農業協同組合

代表理事組合長

金子 洋一

基本構想

かけがえのない但馬を次世代へつなぐため、
「魅力ある農業・豊かな暮らし・地域の絆」づくりに貢献します。

但馬は広大な土地に多様な自然を育み、その自然によって地域色豊かな農畜産物が作られています。また、地域への愛着から生まれた絆は、暮らしに安心をもたらすなど、但馬は私たちにとってかけがえのないものとなっています。

この先、高齢化や人口の減少など、但馬にとって困難な状況が見込まれますが、かけがえのないふるさとを次世代へつなぐことは、今を生きる私たちの責任です。

その責任を果たすためには、子どもから高齢者まで、幅広い世代で力を合わせて但馬に一層の魅力と元気を与えていくことが必要です。

JAたじまは、これからの10年、地域に根ざす農業協同組合として、農業や暮らしに関する事業を通して世代を超えた地域のつながりを生み出し、より魅力ある但馬を次世代へつないでいくための一翼を担います。



将来目標 農業

地域と共に農業を活性化し、

但馬の豊かな自然環境と食の安全・安心を守ります。

■ 地域と共に農業を活性化します。

但馬では、地域の特色を活かした農畜産物づくりが営まれています。それらを今以上に活性化していくためには、農業者(組合員)やJAだけではなく、地域住民とつながる農業の取り組みが必要です。

JAたじまは、「たじまんま」など、農業者と消費者がつながる直売所を地産地消の拠点と位置づけ、その土地に合った多種多品目な農産物づくりを行う農業者と地域とをつなぐ役割を担います。

そして、農業者が所得の面でも満足することができるよう、農産物の契約栽培化を進めて付加価値を高め、安定的な生産・販売の実現に取り組めます。また、より多くの消費者に但馬の農産物を味わってもらうため、農産物のブランド化を進め、積極的に販売拡大に取り組めます。

大規模農家や集落営農組織だけでなく、兼業農家や趣味・生きがいの農業者など、但馬の農業を支える多様な担い手に合った事業を展開し、但馬の農業の活性化をはかります。

名牛「但馬牛」の産地として、行政と連携して、牛舎の整備や農家経営への指導を通じた増頭に取り組むとともに、肉質や体格の向上を目指します。また、積極的なPR活動による購買者の確保などによる販売価格の向上を目指します。

■ 但馬の豊かな自然環境を守ります。

但馬の豊かな自然は山や河川、海だけでなく、田んぼや畑などの農地が里地里山の重要な役割を担い、但馬のすばらしい景観の一部となっています。

このようなすばらしい但馬の里地里山を守っていくために、集落の農地を守る多様な担い手への支援を行います。

また、全国に先駆け取り組んでいる、「コウノトリ育むお米」づくりをはじめとする「環境にやさしい農業」を進め、地域の生態系や環境の保全に貢献します。

■ 食の安全・安心を守ります。

JAたじまは、但馬の人だけではなく、全国の消費者からも信頼される安全安心な農畜産物づくりにつとめます。

「たじまんま」などを拠点に、地域の人々が望む、「食の安全・安心」に応えるとともに、農畜産物のすばらしさや、食に対する理解を深める「食育」活動に取り組んでいきます。

また、全国の消費者との交流事業を進めることで、但馬の農畜産物のファンづくりを行います。

中期3か年計画 — Plan 2016 —

但馬の農業の特徴を強みに変えるため、農畜産物のブランド化に取り組みます。また、農家手取りの向上や担い手育成などに取り組むとともに、環境に配慮した農業を実践し、持続可能な農業の実現につとめます。

実施年度の表記は、○…実施・導入など △…研究・調査・試行などを表します

項目	取組事項	具体的取組事項	実施年度		
			26年	27年	28年
稲作振興	1. 特A地域を目指した品質の向上※				
	(1) 乳白米対策継続と試験研究	乳白・基部未熟対策のための試験田設置 新品種の導入	○	○	○
	(2) 土づくりによる高品質・良食味米の安定生産	土壌診断の実施 現地指導会の開催 地域での土づくり大会の開催	○	○	○
	(3) 地域の特色を活かした栽培方法の確立	地域別栽培暦の作成	△	○	○
	2. 契約栽培による但馬米ブランドの確立				
	(1) 特色ある契約栽培米の拡大	地域・生産者・栽培方法等にこだわったブランド米の拡大 生産部会活動の強化 酒米の品質向上	○	○	○
	(2) JA直売米の販売強化	販売店舗数・販売量の拡大 新規商品の企画提案 地米屋・ネット販売の強化	○	○	○
	(3) 精米品質管理の強化	色彩選別機・金属検知器の追加導入	○		
	3. 「食の架け橋」活動の強化				
	(1) 交流事業の拡大	田植え・生きもの調査・稲刈り等、交流会の実施 試食販売・イベントへの積極参加	○	○	○
	(2) 産地情報の発信	インターネットを使った情報発信の充実	○	○	○
	4. 米需給調整対策への対応				
	(1) 各種用途別米の制度活用	加工用米・備蓄米・新規需要米等の生産誘導	○	○	○
	(2) 米輸出の検討と実施	コウノトリ育むお米等の輸出	△	△	○
	5. カントリーエレベーター・ライスセンターの運営				
	(1) コウノトリ育むお米などの少量多品目に対応した個別区分の荷受・処理の実施	こうのとりにカントリーエレベーターの設置・運営	○	○	○
	(2) 大型農家・集落営農への対応強化	モデル・モニター事業の推進 新規利用者の開拓	○	○	○
	6. 育苗施設の更新とよりよい苗の供給				
	(1) 老朽化が進む育苗施設の更新	機械更新計画の策定と更新	○	○	○
	(2) コウノトリ育む農法に対応した苗づくり	プール育苗の研究	△	△	○

※ 特A地域…全国のお米の食味において(財)日本穀物検定協会の定める最上級評価を受けた地域

項目	取組事項	具体的取組事項	実施年度			
			26年	27年	28年	
特産振興	1. 重点振興品目の生産拡大					
	(1) 但馬一円での生産拡大	ピーマン・キャベツ・朝倉さんしょ・丹波黒大豆	○	○	○	
	(2) 地域振興品目の拡大	岩津ねぎ・美方大納言小豆・高原大根・ハウレンソウ・トマト・梨	○	○	○	
	(3) 部会活動の活性化	部会員の募集、作付拡大	○	○	○	
	(4) 「コウノトリの贈り物」ブランドのPR	認定農産物のPRとロゴ使用の拡大	○	○	○	
	2. 販売チャネルの活用と生産者手取りの向上					
	(1) 市場出荷（共販）での販売力強化	生産力強化によるロット販売	○	○	○	
	(2) 直売所・インショップの活性化	生産指導と出荷者数の拡大	○	○	○	
	(3) たじまんま出荷者の拡大と作付品目・面積の拡大	生産者大会・栽培講習会・食品衛生講習会等の実施	○	○	○	
		新規出荷者・次世代の育成	○	○	○	
	地元施設への販売や提携 J A との販売連携	○	○	○		
(4) たじまんまを通じた新たな販売ルート拡大	ネットスーパーの検討	△	△	△		
資材・農機	1. 組合員ニーズに合った資材供給					
	(1) 営農指導と連携した取扱い商品の選定	各部会を通じた商品説明会の実施	○	○	○	
	(2) 組合員ニーズに合った店舗運営	営農指導に沿った生産資材の充実	○	○	○	
		農繁期における資材店舗営業時間の見直し	○	○	○	
	2. 農機の長期使用と安全対策					
	(1) 農機整備の利用促進	出張点検の実施	○	○	○	
(2) 安全使用の徹底	安全使用講習会の開催	○	○	○		
	過負荷運転防止の啓発	○	○	○		
(3) 新機種を紹介・提案活動の実施	管理作業（うね作り等）の労力低減に向けた農機の提案	○	○	○		
担い手農家支援	1. 担い手農家の育成と支援					
	(1) 人・農地プラン策定への支援	モデル地区の設定及び支援	△	○	○	
	(2) 新規就農者の育成・支援	新規就農者向け農業スクール（仮称）の開講検討（行政と連携）	△	△	△	
	(3) 担い手農家への営農相談活動の強化	TAC等による大規模農家・集落営農組織等への個別訪問の実施	○	○	○	
	(4) 農作業事故等への補償制度の活用	労災保険事務組合の体制整備と加入促進	△	○	○	
(5) 低利での営農資金の提供	担い手等特別支援 J A アグリマイティー資金等特別枠による資金の提供	○	○	○		

農業

Plan 2016

実施年度の表記は、○…実施・導入など △…研究・調査・試行などを表します

項目	取組事項	具体的取組事項	実施年度		
			26年	27年	28年
農地保全対策	1. 鳥獣害対策の実施				
	(1) 行政と連携した鳥獣害防止研修会の開催	鳥獣害防止対策研修会の実施	○	○	○
	2. 耕作放棄地の縮小に向けた取組				
	(1) 耕作放棄地への農産物提案	行政と連携した地域の特色を活かした有望品目の提案	○	○	○
	(2) 農作業受託の拡大	営農サポートの設立 既存受託組織の充実	△ ○	△ ○	△ ○
	但馬牛の生産振興	1. 但馬牛の産地の維持・拡大			
(1) 国・県等の施策を活用した増頭		牛舎の増築、整備 補助事業を活用した導入・保留 空き牛舎を活用した増頭	○ ○ △	○ ○ ○	○ ○ ○
(2) 畜産農家を支えるヘルパー体制の整備		ヘルパー要員の確保 試験的休暇の取得の奨励	△ △	○ ○	○ ○
(3) 餌・糞尿処理問題の解決による農家負担の軽減		WCS（稲発酵飼料）など、飼料コスト低減の促進 耕畜連携の推進	○ △	○ ○	○ ○
2. 但馬牛の資質向上の取組					
(1) 第96回兵庫県畜産共進会の開催協力		地元（豊岡市）開催委員会等設置・協議	○		
(2) 遺伝的多様性の維持・確保		エムサス(県交配予想システム)の活用	○	○	○
3. 但馬牛の価値向上の取組					
(1) 但馬家畜市場の活性化		県内外購買者を誘致する販路拡張の実施	○	○	○
(2) 枝肉共励会の充実		但馬牛一貫生産雌牛枝肉共励会の新設	○	○	○
4. 但馬牛消費拡大の取組					
(1) 「肉の店」を通じた但馬牛肉の販売拡大		調理方法の提案や加工品の開発による販売促進 イベント販売やインターネット販売の拡大	○ ○	○ ○	○ ○
(2) 但馬で生まれ育った但馬牛の販売拡大		地元肥育牛の積極的な購入	○	○	○

将来目標 くらし

**JA事業を通じてつながりを深め、
豊かで笑顔あふれるくらしを支えます。**

■ JA事業を通じてつながりを深めます。

JAたじまでは、子どもから高齢者まで、幅広い世代のくらしを支えるための事業を行っています。各事業を通じて、JAと地域、地域の人と人、世代を超えた人と人とのつながりができることを私たちは望んでいます。それは大きな輪となり、地域のセーフティネットとして、くらしの不安を取り除いてくれると信じているからです。

JAたじまでは、これからも地域貢献活動の一つとして、地域イベントへの参加や各種ボランティア活動などを行う「地域ふれあい活動」や食農体験教室「あぐりキッズスクール」、高齢者世帯への訪問活動などを行いながら、地域のつながりを作り出していきます。

私たちは支店や営農生活センターを、組合員を中心とした地域の人々が集い、活動する拠点として位置づけ、地域のつながりを深める活動に取り組んでいきます。

■ 豊かで笑顔あふれるくらしを支えます。

「豊かで笑顔あふれるくらし」とは、精神的な「安心」と、経済的な「安心」から生まれるものです。その2つの安心を支えるため、JAたじまでは様々な事業に取り組んでいます。

JAたじまは、地域のつながりを作り出すため、組合員や地域の方と協力して実施する「地域ふれあい活動」やボランティア活動などを実施します。

福祉事業においては、専門スタッフの育成と福祉活動の充実を図り、高齢者やその家族が安心して暮らせるよう、地域の実状に合わせた事業展開に取り組めます。

また、信用事業においては、組合員、利用者の財産を守り、農業資金や住宅資金などの融資を通して、経済、生活の安心をささえる「信頼度地域ナンバーワン」を目指します。

共済事業においては、ひと・いえ・くるまの総合保障を柱とした利用拡大を通して、相互扶助の精神に基づいた地域内での支えあいの輪を広げます。また、建物共済の普及につとめ、雪水害など但馬におけるくらしの不安を軽減し、安心なくらしを支えています。

JAたじまは地域のつながりの中で、豊かで笑顔あふれるくらしを支える身近なパートナーと呼ばれる存在を目指していきます。

中期3か年計画 — Plan 2016 —

地域のつながりを深める活動に取り組むとともに、JA事業を通じて組合員、地域へくらしの安全・安心の提供につとめます。

また、介護福祉事業を中心とした高齢者向け事業の拡充をはかります。

実施年度の表記は、○…実施・導入など △…研究・調査・試行などを表します

項目	取組事項	具体的取組事項	実施年度			
			26年	27年	28年	
くらしの相談活動	1. くらしの相談活動の強化					
	(1) 相談機会の充実	くらしに関する相談会・セミナー開催（ローン・年金・相続） コンサルタントによる個別相続・遺言相談会の実施 弁護士による無料法律相談会、無料交通事故相談会の実施	○	○	○	
くらしの安全・安心支援	(2) 相談機能の充実	信用・共済事業に精通する総合渉外担当者の導入 年金アドバイザー、ファイナンシャルプランナー 資格取得職員の増強	○	○	○	
	1. JA共済による契約者安心サービスの提供					
	(1) 大規模災害発生時の損害調査体制の整備・充実	損害調査員資格者の確保と資質の向上	○	○	○	
	(2) 交通事故現場急行サービスの実施	職員又は提携業者による現場での契約者対応	○	○	○	
	(3) 3Q訪問活動の展開による既契約者への情報提供	あんしんチェック活動（丁寧な加入内容の説明と保障点検）の実施	○	○	○	
高齢者支援	(4) 未加入者への普及による地域内利用者の拡大	未加入者への訪問・提案活動	○	○	○	
	(5) 高額加入者サービスの提供	共済高額加入者大会「共済歌謡ショー」の開催	○	△	△	
	1. 高齢者のくらしを支える活動					
	(1) 高齢者世帯へのきめ細やかな渉外活動の実施	年金受給者に対する現金宅配の実施	○	○	○	
	2. 地域に求められる福祉事業の展開					
地域とのつながり強化	(1) 利用者満足を高める新規介護施設の運営	デイサービスと連携した総合的な介護サービスの提供（豊岡ショートステイ） 訪問・居宅と連携した通所介護サービスの提供（七釜デイサービス）	○	○	○	
	(2) 体制整備による訪問・居宅・通所介護事業のさらなる充実	自主開催による介護職員初任者研修の実施と職員の確保	△	○	○	
	(3) 認知症の理解に向けた啓発活動の実施	JA福祉施設利用者家族への啓発活動の実施	△	○	○	
	1. 組合員・地域とのつながりを深める活動					
地域とのつながり強化	(1) 組合員間の親睦を深める活動	組合員ゴルフ大会・地区対抗囲碁大会の実施	○	○	○	
	(2) 組合員・利用者へJA運動の理解と促進をすすめる、次世代へとつなげる活動	料理教室などの学習活動を通じたJAファン・グループづくり	○	○	○	
	(3) たじまJA女性会活動への支援	女性会の活動基本方針に沿った支援	○	○	○	
	(4) 「JAたじま JA共済アンパンマンこどもくらぶ」活動の充実と拡大	アンパンマンショー、子育て教室の開催、会報誌の配布	○	○	○	

項目	取組事項	具体的取組事項	実施年度		
			26年	27年	28年
豊 か な く ら し の 提 案	1. くらしを豊かにする金融サービスの提供				
	(1) 組合員向け定期貯金の提供	金利優遇定期貯金キャンペーンの実施	○	○	○
	(2) 住宅、マイカー、教育等のローン商品の提供	金利軽減キャンペーンの実施	○	○	○
	(3) 区・農会費等に係る口座振替サービスの実施	定時自動集金システムの活用による口座振替手数料の減免	○	○	○
	2. 子育て世代に対するサービスの充実				
	(1) 子育て支援金融商品の提供	金利優遇定期積金の取り扱い	○	○	○
	3. 生活メインバンク機能の強化				
	(1) 給与・年金振込口座への決済機能セットの促進	J Aカード、公共料金引き落とし等によるメイン化の促進	○	○	○
	4. 年金友の会を通じた生きがいづくり				
	(1) 年金友の会活動の充実	観劇、グラウンドゴルフ、親睦旅行等の実施	○	○	○
	(2) 年金友の会会員特典の提供	お誕生日プレゼント、長寿・マイライフ定期積金の提供	○	○	○
	(3) 年金予約者（ヤングシニア）活動の充実	各支店（ブロック）単位での活動	○	○	○
	5. ガスを使った快適で環境にやさしいくらしの提案				
	(1) エコで経済的なくらしの提案	石油給湯器から高効率給湯器（エコジョーズ）への切り替え促進	○	○	○
	(2) 安全にご利用いただくための取組	簡易ガス地区、一般ガス埋設管の維持管理 シルバーサポート活動の実施	○	○	○
	6. 健康で文化的なくらしの実現				
	(1) 健康管理活動の継続・特定健診の受診率向上への支援	特定健診・町ぐるみ健診の継続 イベント健診の実施	○	○	○
	7. 魅力ある旅行の提案				
	(1) 年金友の会向け旅行の提案	年金受給者若年層向けプライベートツアーの実施	○	○	○
	(2) 定期積金を利用したシニア(55～64歳)向けツアーの実施	「日本の世界遺産めぐり」企画の実施	△	○	○
	(3) 各支店ふれあい旅行の実施	支店ごとの旅行友の会の設立を通じた企画の充実	○	○	○

将来目標 組織・経営

組織基盤の強化と、より堅実な経営を実践し、
誰からも信頼されるJAを目指します。

■ 組織基盤の強化に取り組みます。

将来にわたって協同組合運動を継続していくためには、JAたじまに対する理解者を増やし、多くの方に組合員として、その運動に参画していただく必要があります。

そのために、多くの方にご利用いただく機会を持つ支店・営農生活センターなどでの情報発信につとめ、事業利用を通じてJAたじまへの理解を深めていただくようつとめていきます。

また、若年層や女性など、これまで接点が少なかった方にもJAたじまの活動を理解していただくため、これまで以上に地域に密着した組織運営を行い、JAたじまのファンを増やして組織基盤を強化していきます。

■ 堅実な経営を実践します。

JAたじまが協同組合運動を継続していくためには、経営体としての維持・継続が必要です。

私たちは将来の組合員を取り巻く環境を見据え、真に組合員のくらしを支え、利用していただける事業活動に取り組んでいきます。また、それらのことを通して組合員の事業利用度を高めることにより、財務基盤を安定させ、堅実な経営につとめていきます。

■ 信頼されるJAを目指します。

JAたじまは、地域に根ざす協同組合として、その運営においては、地域社会に対して「コンプライアンス(法令遵守)」と「健全な経営」という2つの責任を持っています。

組合員、利用者から信頼されるJAとなるために、役職員に対する必要な研修の実施や、組織内の不正や事務ミスなどを未然に防ぐ体制の整備につとめ、透明性の高い経営につとめていきます。

組織基盤の拡充や広報活動などを通じた組合員活動の支援に取り組みます。また、コンプライアンス態勢の強化や職員の能力向上につとめるなど、組合員・地域から信頼されるJAを目指します。

実施年度の表記は、○…実施・導入など △…研究・調査・試行などを表します

項目	取組事項	具体的取組事項	実施年度		
			26年	27年	28年
組織基盤の強化	1. 組合員参画型のふれあい活動の実現				
	(1) 地域ふれあい活動、社会貢献活動の実施	組合員参画型の支店行動計画の策定 支店運営委員会活動の充実	△	○	○
	2. 組合組織基盤の拡充				
	(1) 組合員加入の促進	新規加入・複数組合員 市街地世帯への加入促進	○	○	○
次世代対策	1. 子ども向けの活動を中心とした次世代への支援				
	(1) あぐりキッズスクールの継続実施	あぐりキッズスクールと関わる地域や人との連携強化	○	○	○
	(2) JAたじま杯の継続実施	但馬全域の小学生スポーツ大会への協賛	○	○	○
	(3) 子育て支援の実施	ママ友セミナーの継続実施	○	○	○
(4) 但馬管内の小学校・保護者を対象にした体験旅行の提案	収穫体験ができる食農教育ツアー企画の実施	○	○	○	
広報活動	1. 組合員活動を支える広報活動の充実				
	(1) 広報誌リレーションの誌面充実 (2) ホームページの充実	読者へのアンケートの実施、モニター募集 「活動レポート」の充実	○	○	○
経営改善	1. コンプライアンス態勢の強化				
	(1) コンプライアンスの徹底	各部署・階層別コンプライアンス研修会の実施	○	○	○
	2. 堅実な経営の実践				
	(1) リスク管理態勢の強化	資産査定管理態勢の強化 内部統制の整備と運用の徹底	○	○	○
	(2) 不稼働資産の活用と処分	活用の検討と計画的な処分の実施	△	○	○
	(3) 総合支店への機能集約の実施	渉外活動エリア充実のための支店機能の見直し 分店の機械店舗化	△	△	○
	(4) 営農経済事業の収支改善	全農一体化運営の実現に向けた農機事業の収支改善	○	○	○
	3. 職員の業務能力の向上				
	(1) 職員の資格取得促進	部門間連携による研修・資格取得 通信教育・資格試験の推奨	○	○	○
	(2) 組合員満足度の向上	JA職員のマナー向上	○	○	○
施設整備	1. 計画的な施設整備				
	(1) 本店の整備	本店の建設	△	○	○
	(2) 支店の整備	老朽化支店の建替え	△	○	△
(3) 和田山地区施設の整備	マスタープランの作成	△	△	○	

J A 綱領

— わたしたち J A のめざすもの —

わたしたち J A の組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

1. 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
1. 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
1. J A への積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
1. 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、J A を健全に経営し信頼を高めよう。
1. 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

この中期3か年計画「Plan 2016」に掲載しています内容は、J A たじまが平成26年度以降の3年間に行う予定であるものをまとめたものです。

そのため本資料に記載された意見や予測などについては、資料作成時における判断であり、社会情勢や経営状況などにより変更を余儀なくされることがありますが、変更については毎年開催します総代会において単年度計画に反映しご報告等を行います。

